

ステアリングシステムズ アメリカテクニカルセンター

KOYO STEERING SYSTEMS OF USA, TECHNICAL CENTER

1. 設立の経緯

ステアリングシステムズ アメリカテクニカルセンターは1999年1月Koyo Steering Systems of USA, Inc(以下KSUと称す)の設立と同時に開設されました。

場所はKoyo Corporation of USA(以下KCUと称す)の軸受販売会社デトロイト支店と同じで、この建物の東側に実験室を増築し、実験設備を導入して活動を開始しました。

2. 地域の紹介

自動車と言えばデトロイトがメッカであり、アメリカ自動車関係のR & D部門の92%がデトロイトを中心とした郊外(ミシガン州東南地区)に集中しております。また、自動車以外にも含めた全R & D就業人口の80%がこの地域に集中していますが、その理由は自動車関係では設計開発に関するノウハウの情報が豊富に得られるなどが挙げられます。

人材の面では、アンアーバー市のミシガン大学を始めとして多くの大学の存在の環境により、教育水準の高い技術者が集まってきました。

このようなデトロイト郊外地域の中でも、特に75号線北部沿いとM14号線沿いに近年集中的にR & D施設が増加しています。

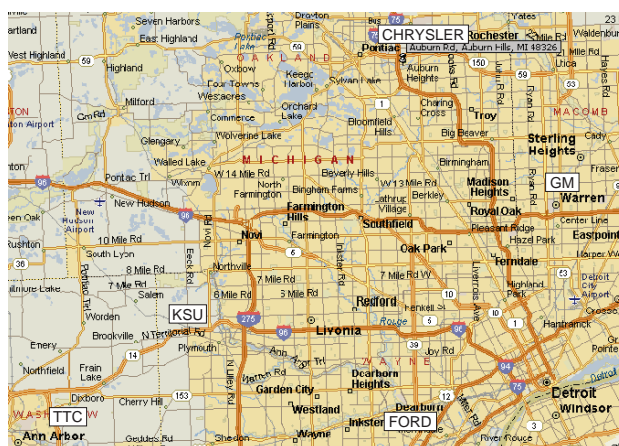
当テクニカルセンターは、そのM14号と呼ばれる州高速道路の北側に面し、M14号のBECK道路出口近くに位置しています。この地域はMetro West Technology Parkと呼ばれ、東北へ32マイル走ればGMのテクニカルセンターへ、東南へ22マイルでフォードの技術部門へ、北東へ33マイルでダイムラークライスラーのテクニカルセンターへ、さらに西へ12マイル走ればAnn Arborのトヨタテクニカルセンターへ、それぞれ30分以内に到達でき、立地的に非常に便利な場所です。

また、南東へ20マイルでデトロイトの国際空港へ、東へ27マイルで自動車ショーやSAEショー等が開催されるデトロイト中心部へ到着し、自動車の国際都市としての活動にも便利な位置にあります。

25年前の暴動騒ぎ以来さびれ続けたデトロイトの中心地域も、ここ数年来古い建物の取り壊しと、新しいビルの建設ラッシュが続き活気が戻ってき



KSU事務所



KSU所在地

ました。さらに他の都市からデトロイト近郊への人口の流入も多く、西へ西へと住宅建設ラッシュが拡大しています。

3. 内容

さてこのように発展を続けるアメリカ自動車産業の中心地に当社のステアリング技術の拠点を設立したのは、Koyoが世界で初めて開発し生産を開始して以来12年の量産実績を持つ省エネルギー電動パワーステアリング(EPS - 燃費削減3%)をアメリカ市場での拡大していくのが大きな目的です。

また、日本のテクニカルセンター、ヨーロッパテクニカルセンターとともに3極体制の一躍を担うことも大きな目的です。

まだできたばかりで、ヨーロッパテクニカルセンターと違い、日本からのサポートによる開発が主体ですが、今後、設備と人員を充実して、顧客へのデザインイン、評価サービスを迅速に行えるよう推進しております。

EPSではコントローラーによりフィーリングを

いかようにもチューニングできるため、顧客の要求に応じて、実車テストでの種々の調整やデータの測定に、技術者と機器がフル回転をしています。

この拠点にはセールス、ゲストエンジニア、販売技術、管理等の機能も同居し、顧客の開発対応に当たっております。

4. 設備の紹介

KSU本社工場はヴァージニアにあり、EPSの生産準備が行われていますが、テクニカルセンターにはシミュレーション耐久試験機、ねじり破壊試験機、圧縮破壊試験機、落錘破壊試験機、環境試験機、恒温恒湿層、各種単体ユニット耐久試験機、実車レトロフィット機器、システム性能測定機、各種ユニット性能測定機、周波数分析器、車載測定・記録機、コントローラ性能測定機、モータートルク性能測定機、振動・騒音測定機、表面形状・粗さ測定機などが導入済みで実験設備は順次充実させています。

その他、精密測定や材料の定性・定量分析、材料・硬さ・組織分析、化学分析については軸受部門テクニカルセンター(A-TEC)の長年築き上げた経験やノウハウおよび設備を利用しています。

さらに現地調達の推進に当り、現地での評価とともに設計機能の一部を備えるべく、CAD設備も導入し、デジタルデータ電送により当センターと顧客および日本の技術センターとの図面や解析データの双方向通信を行って対応しています。



評価設備

5. 今後の展望

将来の展望として、アメリカの自動車市場は全体としては大きな市場ではありますが、日本やヨーロッパと異なり、現在EPSを採用できる小型車の割合は24%で、そのうちビッグ3の持ち分は全体の僅か9%しかありません。したがってアメリカでEPSを大きく育てるためには中・大型車に使えるEPSの開発を必要とします。

そのためには顧客と一体になった現地での開発の重要性が一層高まり、ステアリングシステムズアメリカテクニカルセンターの役割は今後ますます重要になってきます。EPS採用による3%の燃費削減は個々の車のユーザーにとっては小さなメリットかも知れませんが、車全体での削減は、環境問題も含め、地域社会に大きく貢献できるものと確信します。

(光洋ステアリングシステムズ アメリカ
遠藤成彬)